

本学習による生徒の変容(分析結果)

神奈川県立海老名高等学校1年生10クラス(約400人)を対象に、企業と連携した環境授業を実施しました。
本学習による生徒の変容(分析結果)は以下の通りです。

SDGsサーベイによる分析結果

SDGsサーベイとは、一般社団法人日本エシカル推進協議会が開発した、SDGs度を自己診断できるSDGs評価ツールです。SDGsサーベイの50の質問に回答すれば、自分の『SDGs度』がわかります。(回答所要時間15分程度)

評価方法

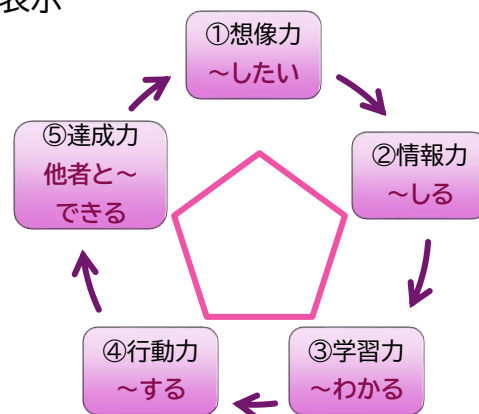
50の質問に対する7段階の回答(とてもしている～全くしない)を点数化。

50問の設問の例

1. 一日に約200円(アメリカドルで1ドル90セント)以下で生活している世界の貧しい人たちと、私たちの世界は関係ない。
4. 異常気象によって大きな災害が起きている「地球環境の危機的状況」について、世界の情報を知っている。
13. 食べ物を無駄に捨ててしまうというフードロスがないように、自分の周りの人たちと工夫して、しっかり実行している。

評価結果

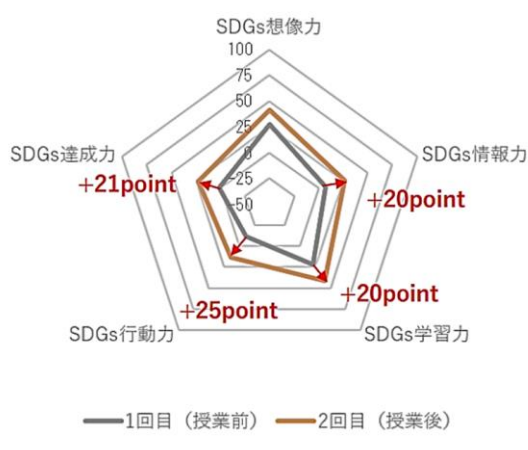
SDGs 理解の5段階のレーダーチャートで表示



SDGsサーベイ 1回目(授業前)と2回目(授業後)の比較

本学習では、授業前と授業後の2回を実施し、専門家に分析を依頼しました。2回目はすべての項目で伸び、特に行動力が25ポイント伸びました。この結果から、本学習がエシカル消費行動への意欲を高めることにつながったと考えています。

ebina1回目と2回目の比較(全体)

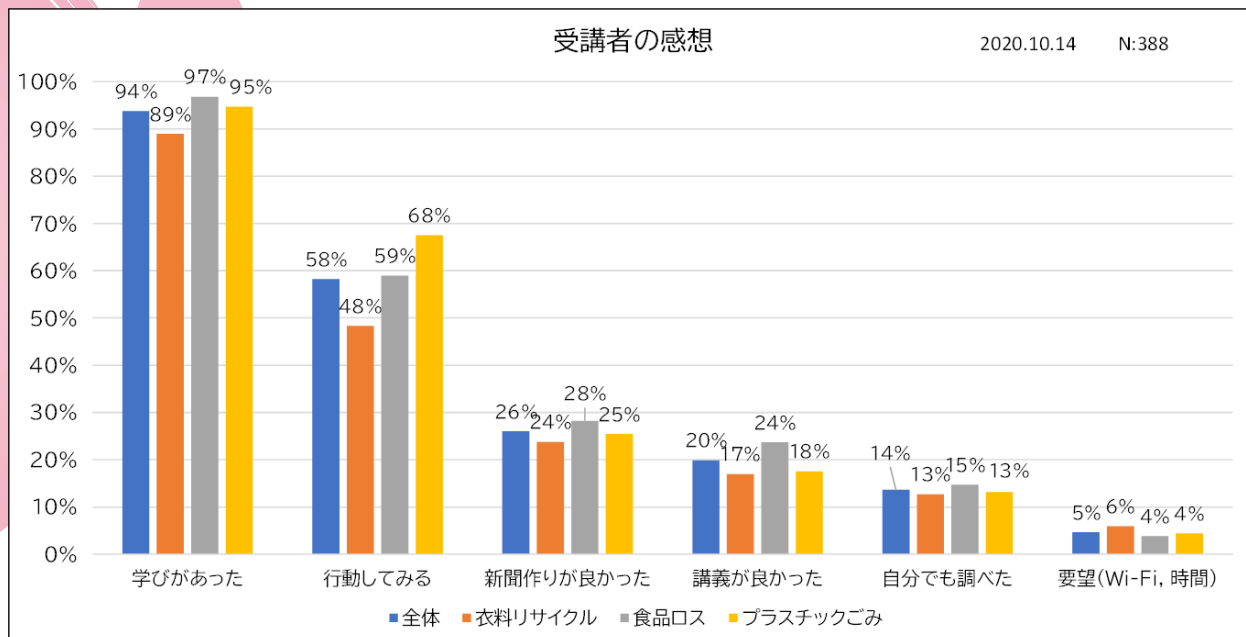


	1回目 (授業前)	2回目 (授業後)	2回目と 1回目の差
SDGs想像力	27.4	41.5	↑ 14.1
SDGs情報力	6.6	26.4	↑ 19.8
SDGs学習力	21.3	41.3	↑ 20.0
SDGs行動力	-11.5	13.5	↑ 25.0
SDGs達成力	1.2	22.5	↑ 21.2

出典:一般社団法人日本エシカル推進協議会
SDGs調査結果分析20.11.1

生徒の感想からの分析結果

授業終了後に生徒が書いた感想から、言葉を拾い出し、分析しました。



ここから、以下の内容が見て取れます。

- 94%の生徒が講座から何かを学んでいる。
- 学びが行動の動機となる比率がばらついているが、テーマのインパクトの程度や日常的な関わりによると思われる。
- 新聞作りは「考えを整理し、理解を深めるのに役だった」とのコメントが多かった。また自らの調査のきっかけにもなっている。

生徒の感想から（抜粋）

- 今日の講座を通して、あまりエコで意識していなかった衣服について主観的な意見を聞くことができたので、とても参考になった。新聞を作ることによってアウトプットにもつながったと思うので、良い時間だった。他の人の考え、捉え方も知れたので有意義だった。
- 僕はいつも口だけの男で、行動には移せないのですが、今日の講座で実際にゴミを減らす活動をされている方の話を聞いて、行動すれば、こんなに変わるんだとわかりました。またその話を聞いて自分もこの世界を変えてやろうという志を持つことができました。
- 前に、なんでこんなに同じ服を作っているんだろうと思っていたことがありました。でも、それは自分たちのニーズに応えようとしてこうなったもので、アパレル企業と私たち個人が意思疎通していけば良い方向に傾くのではないのかと思いました。
- 工場内も見せていただけるといっても貴重な時間だったと思います。また、食品ロスから少し離れた就労支援の話も聞けて良かったです。自分で新聞を作ると、知ろうとする気持ちが湧くので、いろいろなことを知れた気がします。こんなに食品ロスに真剣に向き合える時間はなかなかないので、とても充実していたと思いました。
- Zoom ミーティングでの発表ということで、これまでこのような形式で講義を受けたことはなかったが、今まで受けた講義よりもわかりやすかった。
- 新聞を書くことで、自分の中で整理できて理解が深まった。今度は違う人の話を聞いて、いろいろなこと、問題を知りたい。また、それをどう解決するか考えていけるようにしたい。今日、聞いた話を今後の生活に生かして、今ある問題について向き合って自分から行動していきたい。